

初の住民参加型防災訓練

市原の 乙月自治会 700人、新設小で実践的に

地区全体で「いざ」というときに備えようと、市原市のちはら台乙月自治会（寒河江二郎会長）が、初めて全住民参加型の実践的な防災訓練を実施した。

同自治会は同市ちはら台東4、9丁目の約500世帯で構成。2004年に設立され安心・安全で快適なまちづくりを目指し、さまざまな活動を展開している。

防災訓練は、自治会設立当初から役員らを中心に実施してきた。今回は4月に避難場所となる同市立ちほら台桜小学校が開校したことから、その確認と防災意識の高揚を兼ねて初めて全住民参加型訓練に切り替えたもの。

大規模災害の発生を想

定。住民約700人は同校までの避難経路をこみ拾いしながら参集し、まずは各世帯の安否確認を行った。



初期消火訓練にチャレンジする家族＝市原市立ちほら台桜小

訓練内容は、市原市災害ボランティアネットワーク、市津消防署がコーディネート。校庭などを会場に炊飯、ロープ結び、テントやトイレの設営、即席のオイルランプやスリッパ作り、初期消火訓練、AED（自動体外式除細動器）などを使った応急救護訓練ま

で、実践的な訓練に子どもから高齢者まで真剣に取り組んだ。